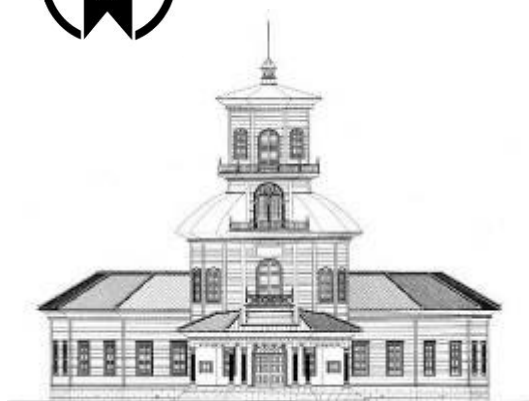




国指定重要文化財旧済生館本館

郷土館だより

No.99

令和 7. 3. 31 発行

〒990-0826 山形市霞城町1番1号
山形市郷土館 TEL/FAX 023(644)0253

URL <https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp>

[/bunkasports/bunkazai/1006705/1008027.html](https://bunkasports/bunkazai/1006705/1008027.html)

山形アーカイブと「ななはく！」の楽しみ方

山形大学学士課程基盤教育院 教授

山形大学附属博物館 学芸研究員 佐藤 琴

2月と9月にアズ七日町や御殿堰のあたりで真っ赤なTシャツを着た人々を見かけたことはありませんか？彼らは大学生のような出で立ちの方が多いですが、時々髪に白いものが混じっている方もいます。そして真っ赤なTシャツの胸の部分には白抜きで「ななはく！」と書かれています。

さて、彼らは何をしているのでしょうか。そもそも「ななはく！」とはどういう意味なのでしょうか？

本稿はそのことを説明します。まず、「山形アーカイブ」をご覧ください。スマートフォンで下のQRコードを読み込むと図2がでできます。「山形アーカイブ」のタイトルの下の文翔館の写真は、1877年(明治10)に建てられた初代県庁の画像(絵葉書)から始まり、1911年(明治44)の市北大火で焼失した跡地、1916年に完成した新県庁(現在の文翔館)、戦前、戦後、そして現在と横にスライドして移り変わっていきます。しかもどの写真も七日町大通りから撮影したものです。



図1 山形アーカイブ

およそ150年の県庁の変遷を定点観測しているかのように見ることができます。

そして、スマートフォンで見ると、その下にある地図が現れます。(図3)。説明にあるとおり、現在の地図と古い地図を重ね合わせて比較できます。しかも制作された時期や範囲が異なる地図が複数

用意されており、江戸時代から昭和初期の山形の移り変わりもわかります。それだけでなく、地図上の「別ページで開く」をクリックすると全画面となり、GPSをオンにしている場合は地図の上にスマホを操作している方の現在地が赤い円で表示されます。つまり、スマホで重ね合わせ地図を見ながら、自分がいる場所が昔どうだったのかを確認できます。まち歩きのお供にぜひご活用ください。



図2 山形アーカイブ
トップページ

トップページの地図の下には「カテゴリー」の文字があり、その下に「地図」「絵葉書」「写真」「武器」「絵画」「文書」「その他」と並んでいます。「絵葉書」をクリックすれば「山形アーカイブ」に納められた絵葉書のサ

ムネイル画像がずらりと並びます。また、画面右下の「検索」をクリックすればキーワードでの検索もできますし、「所蔵館」や「年代」で絞り込むことができます。

現在の「山形アーカイブ」には山形大学附属博物館だけでなく、最上義光歴史館などの山形市内の博物館とふすま同窓会などの博物館以外の団体、そして「山形アーカイブ」の説明文にもあるとおり、山形大学学生サークル「まちの記憶を残し隊」が毎月末に七日町大通りで撮影している街並みの風景など、分野も年代も多岐にわたる資料が掲載されています。もちろん、山形市郷土館所蔵史料も470点掲載されています。

過去から現在まで、さまざまな分野の史料を見ることができるのが「山形アーカイブ」の面白さです。所蔵機関や分野を横断した検索プラットフォームとして国立国会図書館が提供している「ジャパンサーチ」があります。こちらは2022年8月現在2,600万件の史料が掲載されています。しかし、豊富にあるからといって必要な情報がスムーズに手にはいるわけではありません。ジャパンサーチで「済生館」と入力して検索すると、後藤嘉一『済生館史』（山形市立病院済生館1966年刊）などの本や



図3 山形アーカイブ
重ね合わせ地図

公文書とともに、「瓜生済生館」「福井済生館」など、私たちが想定していなかったものも表示されます（これはこれでおもしろいですが）。しかも、全てに画像がついているわけではありません。

「山形アーカイブ」はその名のとおり、山形の人々による山形の人々のためのアーカイブです。しかも、「まちの記憶を残し隊」の大活躍で、現在の山形市の風景がどんどん蓄積されてきています。「済生館」で検索すれば、済生館の創建当初（1878年）の七日町の風景や、移築復元工事中の写真などを見ることができます。それだけでなく、「まちの記憶を残し隊」が撮影した現在の市立病院済生館を七日町通りから見た写真も掲載されており、トップの文翔館と同じように現在と過去を比較することができます。

現在の済生館はいつでも見ることができるとは思いません。しかし、当たり前前の風景ほど残すことは困難です。スマートフォンが普及するはるか前、カメラは一家に一台、しかも父親が使うものでした。フィルムの現像・プリント代もかかりますから、写真は家族旅行などの特別な時に撮影するものでした。現代はスマートフォンが普及し、誰もが枚数を気にせず写真を撮れるようになりましたが、一方で「インスタ映え」などの言葉に象徴されるとおり、「映えるもの」を撮影して共有する時代となりました。

現在インターネット上に存在する膨大な写真のなかには、観光地ではない風景もないわけではありませんが、抽出するのは簡単ではありません。

私たちがこの事業を始めたのは2022年。この年の3月31日に十一屋七日町店は旧店舗での営業を終了し、建て替えとなりました。50年間七日町を彩ってきた建物が失われる前に写真に収めることができました。こちら山形アーカイブで見ることができます。

最後に「ななはく！」について説明します。「山形アーカイブ」を制作・運営している「山形アーカイブ実行委員会」は山形大学附属博物館、山形まちづくり株式会社、山形市、山形市文化振興事業団などから構成されています。なかでも山形大学附属博物館と山形まちづくり株式会社がまちの記憶を集める活動の中核を担っています。活動が始める際に名称があったほうがいいだろうという話になり、私が提案しました。「七日町」の「なな」と「博物館」の「はく」をつないで「ななはく」です。最後の「！」はひらがな四文字をタイトルにした有名なマンガがあり、その最後に「！」がついていました。それを格好いいなと思っていたので、取り入れました。そして「ななはく！」はまち

の記憶を残す意義を発信するイベントの名称となりました。2月と9月にアズ七日町周辺に出没する真っ赤なTシャツを着た人々はそのスタッフです。ぜひ「ななはく！」にお越しいただき、私たちが集めた山形の記憶をご覧くださいだければと思います。



山形アーカイブ実行委員会
(2024年2月16日撮影)

令和6年度の新指定文化財

山形市では令和6年4月8日付で、3件の文化財を山形市指定文化財として指定しました。指定した文化財についてご紹介します。

もくぞうしゃかによらいざぞう 「木造釈迦如来坐像」

【分類】有形文化財

【種別】彫刻

【員数】1 軀

【法量】像高 66.0 cm

【所有者】宗教法人 こんしやうじ 金勝寺

【所在地】山形市山家本町



本像の、頭部が大きく体部が小さくなる体形は、南北朝から室町時代のもと考えられます。またひたいが開いてやや下膨れ気味の輪郭、うつむき加減の面相、波打つような衣のひだの線の表現、とくに両肩で大きくC字形に折り返す表現は院派^{いんぱ}(※1)仏師の作品にみられ、さらに体内部に前後束^{ぜんごつか}(体幹材の前後をつなぐ部材)や、像心束^{ぞうしんつか}(像の下部に上半身を支えるため彫り残した部材)を残すことも院派の作品に知られています。

室町時代の院派仏師は足利尊氏による天龍寺の本尊をはじめとして室町幕府の要人、守護の造仏を行っていました。金勝寺は最上家第二代直家^{なおいえ}の菩提寺として建立された寺です。本像は室町政権における最上家の位置付けを示す歴史資料です。これらのことから、この木造釈迦如来坐像を山形市指定文化財に指定しました。

※1 院派 平安時代後期から室町時代の仏師の一派

もくぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう

「木造聖観音菩薩立像」

【分類】有形文化財

【種別】彫刻

【員数】1 軀

【法量】像高 60.3 cm

【所有者】宗教法人 勝因寺

【所在地】山形市鉄砲町



本像の、頭部が小さく足の長いプロポーションは平安時代後期にみられるものです。体部は肩幅が広く厚みがあり、面相は丸みを基調に穏やかな表情をみせますが、目鼻はやや大きくなり意志的な感覚がみられます。髪際は毛筋彫り(※2)で、また衣のひだの線は彫りが浅いものの、その数は多くなっています。これらのことから、本像は平安時代後期の様式を基調としながら鎌倉時代の表現様式を加えたもので、制作は鎌倉時代初期の12世紀末～13世紀初めのものと思われます。本市においては数少ない鎌倉時代の遺品で、またその作風も中央風の優れたものです。

さらに本像の形式は比叡山延暦寺横川中堂の本尊と同じであり、現状の脇侍像(毘沙門天像、不動明王像)とともに、もとは横川中堂三尊と同じ形式であったと考えられます。鎌倉時代初期、当地に延暦寺の横川教団の勢力が浸透していたことを示すものです。これらのことから、木造聖観音菩薩立像を山形市指定文化財に指定しました。

※2 毛筋彫り 髪の毛を筋目で表すこと

しょういんじさんもんにかいごうてんじょう(しょうが)

「勝因寺山門二階格天井(書画)」

【分類】有形文化財

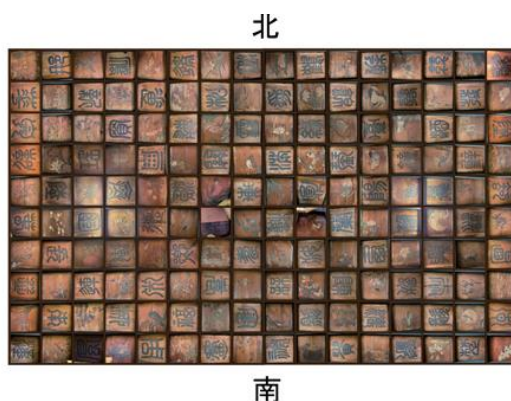
【種別】絵画

【員数】160 面

【法量】約 3m×5m

【所有者】宗教法人 勝因寺

【所在地】山形市鉄砲町

めいわ
明和7年(1770)に完成した勝因寺山門の2階の

格天井にある書画です。格天井全体は、縦(南北方向)10面、横(東西方面)16面、計160面からなります。絵画80面と、絵画の間に板に墨で篆書体の漢字1字を書いた80面が配置されています。近代の修理の痕跡は見られますが、墨書と絵画は当初から交互に配置されていたと思われます。天明2年(1782)竣工の鳥海月山両所宮隨身門の天井画を手掛けた藤沢祐川の絵画10点が含まれており、山形では数少ない18世紀の絵画であり、近世絵画史上重要と認められます。劣化が著しい鳥海月山両所宮隨身門天井画と比較して、保存状態が健全で、大変貴重です。これらのことから、勝因寺山門二階格天井(書画)を山形市指定文化財に指定しました。

郷土館の魅力を

地域おこし協力隊が伝えます！

世界へ

江戸時代の城下町山形、明治に近代化を遂げた県都山形。歴史に育まれた山形はとても面白いです。街中に残る文化財にわくわくしませんか。

地域おこし協力隊
今のどか 隊員

憧れていた山形で働かせていただけて嬉しいです！市内外の皆様に楽しんでいただける展示ができるよう精進します。

地域おこし協力隊
伊藤 なつみ 隊員

地域おこし協力隊は、地域の活性化を目的に都市部から地方に移住し、地域の人々と協力して様々なプロジェクトや活動を行う制度です。隊員は地域資源の活用や移住促進、観光振興などに取り組み、地域の持続可能な発展を支援します。

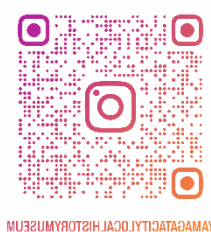
文化創造都市課では、令和5年度から今のどか隊員、6年度から伊藤なつみ隊員が着任し、山形市郷土館を中心に市内の文化財に関する情報を積極的に発信しています。

SNSでの情報発信のほか、郷土館の常設展示のリニューアル、企画展の開催、館内表示の多言語化など、さまざまなことに取り組んでいます。

郷土館 Facebook ページ



郷土館 Instagram ページ



令和6年度 郷土館の事業等

1 展示活動

令和6年度は次の企画展を行いました。

- (1) 山形市郷土館新収蔵品展
『「三層楼」今昔物語』
(7/20～9/1)

令和5年度に山形市郷土館に寄贈された移築復元工事時の写真資料などの新収蔵品を展示しました。

- (2) 山形市郷土館秋季企画展
『みんな大好き！五堰のひみつ』
(10/5～11/10)

山形五堰をテーマに、山形市の景観を形作る山形五堰について、小学生にも分かる内容で、多言語パネルを交えた展示をしました。

- (3) 山形市郷土館冬季企画展
『郷土館の収蔵古書たち』
(12/14～1/19)

山形市郷土館で所蔵している古書の中からピックアップしたものを、解説と併せて展示しました。

- (4) 山形市文化財成果展
(2/8～3/9)

令和5年度に実施した発掘調査の成果や、新指定文化財等を紹介するパネル展示を行いました。

2 イベント

- 郷土館ナイトミュージアム
(4/6・7、4/13・14、8/30、11/1、2/7)

開館時間を延長し、重要文化財「旧済生館本館」三層楼の3階・4階の灯りをつけて、闇夜に浮かび上がるステンドグラスなどの幻想的な雰囲気由来館者を迎えました。四季の移り変わりにより姿を変える郷土館を市民に楽しんでいただくため、春・夏・秋・冬の4回開催しました。

- 旧済生館本館3・4階特別公開
(6/29・7/27・10/26・11/30)

通常は非公開となっている郷土館(旧済生館本館)3・4階を見学していただける機会として、特別公開を開催しました。

3 寄贈等の受け入れ

個人の方より、江戸時代に医師が往診に使用していた駕籠^{かこ}、眼鏡店関係資料、鎖帷子^{くさりかたびら}などを寄贈いただきました。

また山形ロータリークラブ様より、「山形市郷土館環境整備」として敷地内清掃奉仕活動及び環境整備品をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

令和7年度 郷土館の事業予定

- (1) 郷土館ナイトミュージアム
(4月・8月・11月・2月予定)
(2) 山形市郷土館・郷土資料収蔵所
新収蔵品展(7月～8月予定)
(3) 旧済生館本館3・4階特別公開
(4) 秋季企画展
(10月～11月予定)
(5) 冬季企画展
(12月～1月予定)
(6) 山形市文化財成果展(1月～2月予定)

各事業の詳細は、「広報やまがた」や「山形市ホームページ」等でお知らせします。

【郷土館事業のお問い合わせ】

山形市 文化スポーツ部 文化創造都市課
文化財係
〒990-8540 山形県山形市旅籠町 2-3-25
TEL：023-641-1212（内線 626・627）
FAX：023-624-9618
E-mail：bunka@city.yamagata-yamagata.lg.jp

※令和3年度より、山形市郷土館は文化創造都市課が所管しています。